

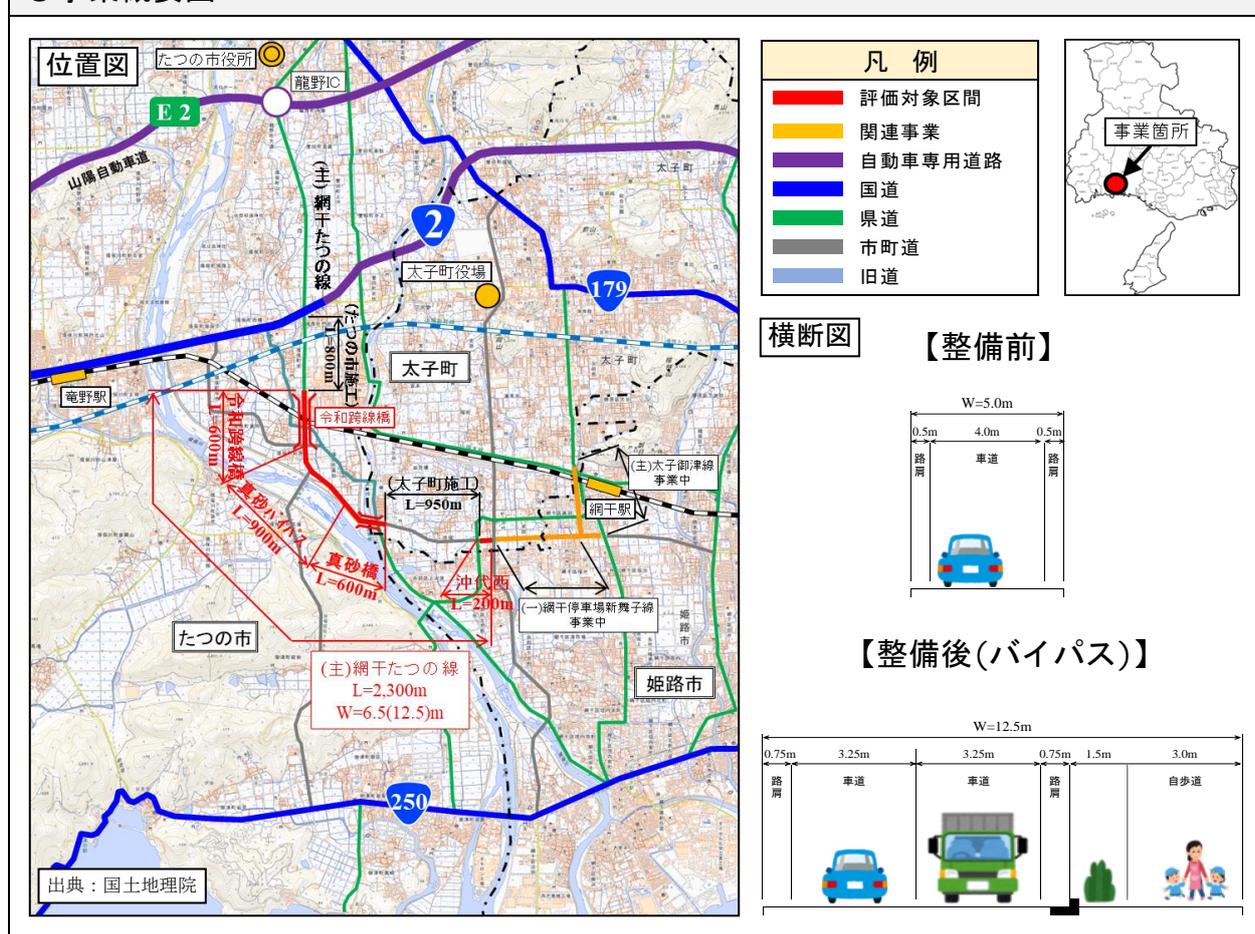
事後評価調書

部課室名	道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (県道班長 勝山 賢一)	内線	4362 (4376)
------	-------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種別	道路事業	事業名	主要地方道 網干たつの線		
事業区間	揖保郡太子町 ^{おきだい} 沖代 ^{いぼちよう} ～たつの市 ^{まつばら} 揖保町松原				
事業期間	計画	平成 18 年度～平成 25 年度	事業費 (内用地補償費)	計画	61 億円 (7 億円)
	実績	平成 18 年度～令和 元 年度		実績	62 億円 (7 億円)
完了年月	令和 2 年 3 月		過去の評価	平成 27 年度 継続評価	

事業目的	事業内容
<p>本路線は、姫路市網干区とたつの市を結び、山陽自動車道、国道 2 号及び国道 250 号を接続する西播磨地域の南北幹線道路である。</p> <p>○安全で円滑な交通の確保 幅員狭小な現道をバイパス化することにより、円滑な交通を確保するとともに、救急医療機関へのアクセス性向上を図る。</p> <p>○安全な歩行者・自転車通行の確保 自転車歩行者道を整備し、歩行者・自転車の安全な通行を確保する。</p> <p>○地域間の交流・連携の促進 西播磨内陸部と瀬戸内臨海部を結ぶ揖龍南北幹線道路を構成する路線であり、地域間の交流・連携を促進する。</p>	<p>【延 長】 2,300m (令和跨線橋 : 600m、真砂^{まなご}バイパス : 900m) (真砂橋 : 600m、沖代西 : 200m)</p> <p>【構造規格】 第 3 種第 2 級</p> <p>【計画幅員】 2 車線 片側自歩道 3.0m 車道 6.5m (全幅 12.5m)</p> <p>【計画交通量】 8,300 台/日 (R12 年予測)</p> <p>【現況交通量】 8,723 台/12h (R6.9 観測)</p> <p>【負担割合】 国 : 55%、県 : 45%</p> <p>【関連事業】 揖龍南北幹線道路</p>

●事業概要図



●事業概要図（事業対象区間写真）

①令和跨線橋



③真砂橋



②真砂バイパス



④沖代西

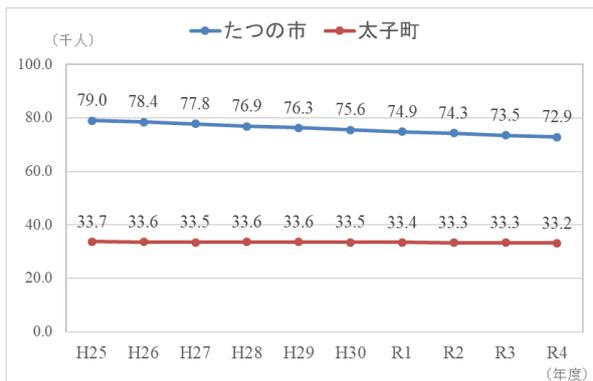


●事業を取り巻く社会経済情勢等の変化

①人口、自動車保有台数の推移

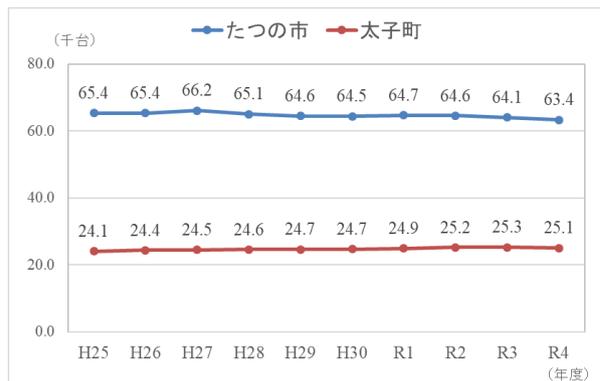
・人口および自動車保有台数はたつの市でやや減少傾向である一方、太子町では横ばい傾向となっている。

人口の推移



出典：市町別主要統計指標

自動車保有台数の推移

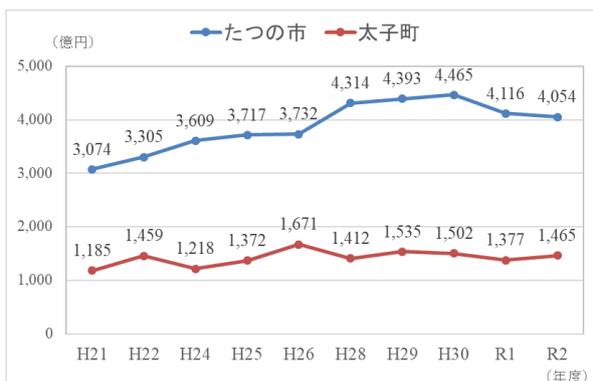


出典：市町別主要統計指標

②製造品出荷額等の推移

・たつの市・太子町における製造品出荷額等は横ばいもしくは増加傾向にある。

製造品出荷額等の推移



出典：市町別主要統計指標

③交通事故発生件数の推移

・たつの警察署管内(たつの市、太子町、佐用町)における交通事故発生件数は減少が著しく10年間で約60%減少している。

交通事故発生件数の推移



出典：市町別主要統計指標

●事業の効果の発現状況

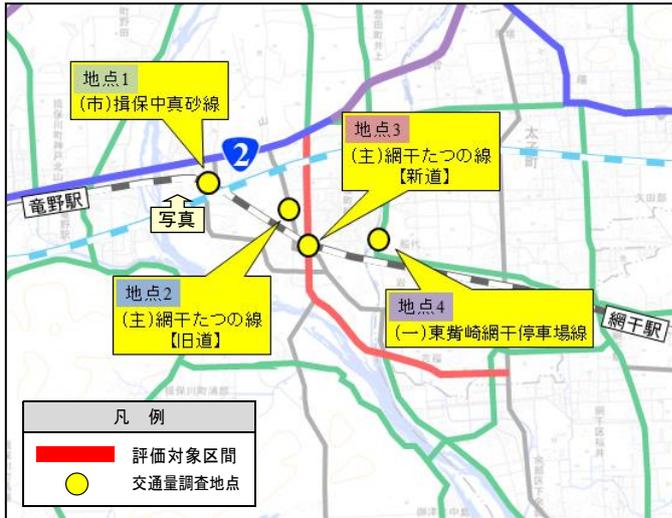
想定した整備効果等及び整備後の状況

【直接効果】 1. 交通の円滑化

(1) 交通混雑の解消

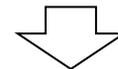
- ・(主)網干たつの線の全線整備により、バイパス区間への交通転換が進み、旧道区間や並行する(市)揖保中真砂線^{いほなか まなご}で発生していた渋滞が解消され、周辺地域における自動車交通の円滑化が図られている。
- ・計画交通量を上回る多くの交通に利用されており、(市)揖保中真砂線以外にも周辺道路の交通量が減少し、地域全体で自動車交通の円滑化が図られている。

<交通実態調査箇所>



<[地点1](市)揖保中真砂線の渋滞状況(JR踏切南部)>

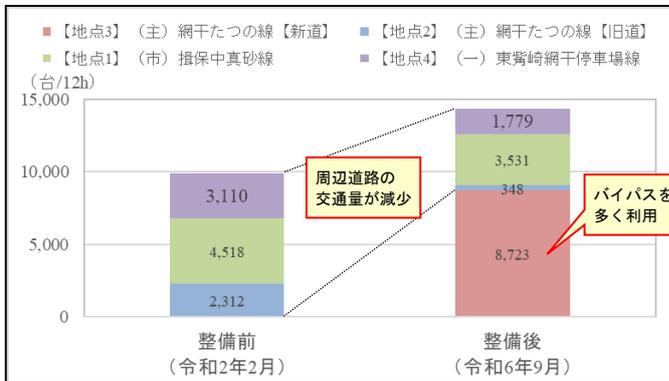
【(主)網干たつの線 整備前】



【(主)網干たつの線 整備後】



<昼間12時間自動車交通量の推移>



住民アンケート調査結果 (令和6年9月実施)

[設問内容]

旧道区間や市道の交通量が減少したことで、良かったと感じることはどのようなことか。

地元住民1



旧道区間や市道の車が減って、通行しやすくなったと感じています。

地元住民2



車との事故に遭う危険が少なくなり、徒歩や自転車での通行しやすくなりました。

ヒアリング調査結果(令和6年8月実施)

●渋滞状況の変化について

地元企業1 (会社員)



姫路方面から通勤する際、(主)網干たつの線が整備される前は最大30分程度かかっていましたが、整備後は10分程度で移動できるようになり、とても便利になったと感じています。

地元企業2 (会社員)



子供がいらっしゃる方は、お昼などに一旦帰宅する際にすぐ移動できるようになったので助かっているようです。

【直接効果】 1. 交通の円滑化

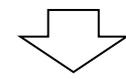
(2) 走行時間短縮・走行快適性の向上

- ・(主)網干たつの線の整備前は、幅員が狭小(大型車通行不能)な旧道を通行する時は離合が困難であったが、整備後は走行性が大きく向上し、**大型車も円滑に走行**できている。
- ・自動車交通の円滑化が図られ、**移動時間の短縮**や公共交通機関の**定時性が確保**でき、利用者の利便性の向上に寄与している。

<旅行速度調査結果 (道路交通センサス) >



旧道区間<西構地区内>



令和跨線橋



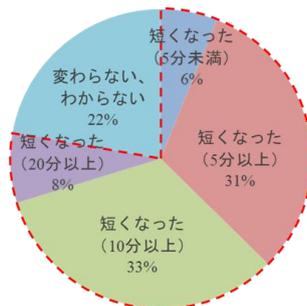
真砂バイパス



道路利用者アンケート調査結果 (令和6年9月実施) [設問内容]

(主)網干たつの線の開通前と比べて目的地への移動時間は短くなったか。

約8割が時間短縮を実感!!



回答者数: 139名

【道路利用者の声】



すれ違うのが怖いくらいの道を通らずに網干方面に行けるようになり、**運転が楽になりました。**



新道は道幅が広いので車を安全に**運転**でき、たつの市の市街地方面にも行きやすくなりました。

ヒアリング調査結果(令和6年8月実施)

●走りやすさの変化について

地元企業3
(会社員)



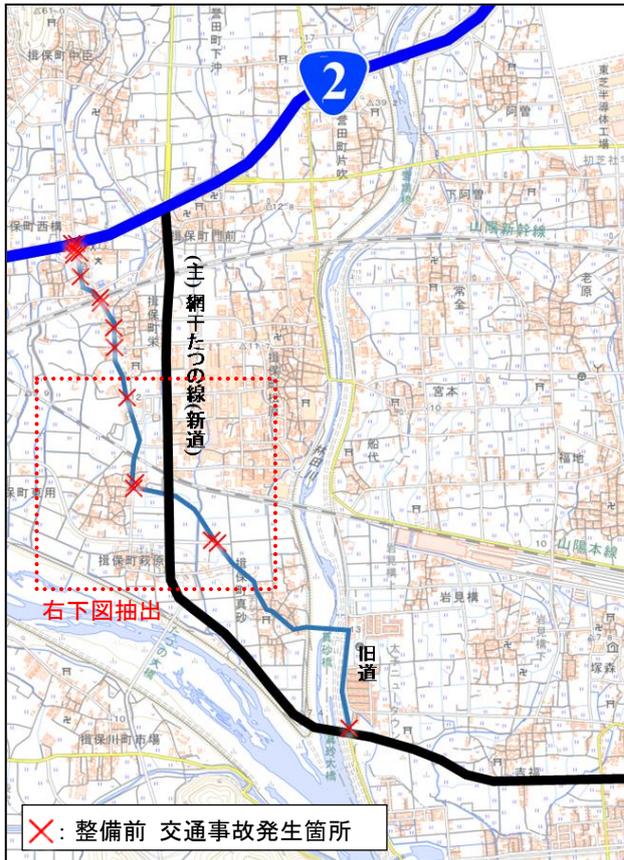
整備前はトラックを含め旧道を走る車が多く、すれ違うのも一苦労という状況でした。大きくきれいな道路が整備されたことで**旧道の交通量が少なくなったので、車の走りやすさは向上している**と思います。

【直接効果】2. 安全・安心効果

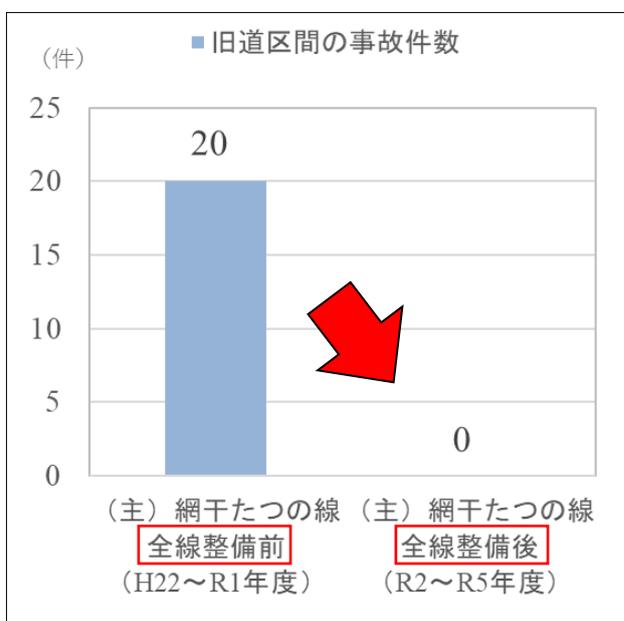
(1) 交通安全性の向上

- ・(主)網干たつの線の全線整備によって新道への自動車交通の転換が図られ、旧道区間沿線における交通事故発生件数は20件(H22~R1年度の10年間)から0件となっていることから、地域の交通安全性の向上が図られている。
- ・整備前は、幅員の狭い旧道区間を歩行者・自転車と自動車が輻輳し危険な状態であったが、自転車歩行者道の整備により、歩行者・自転車利用者の安全が確保された。これにより、通学路がより安全な経路を選択できるようになり、通学児童の安全性が向上した。

<(主)網干たつの線の交通事故発生状況>



【交通事故発生件数の変化】



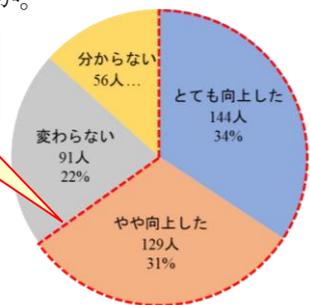
道路利用者アンケート調査結果

(令和6年9月実施)

[設問内容]

(主)網干たつの線が整備されて安全性は向上したか。

約7割が安全性の向上を実感!!



回答者数: 420名

ヒアリング調査結果 (令和6年8月実施)

●整備に伴う通学路の変更について
揖保小学校関係者



令和跨線橋の開通に合わせて一部地区からの通学路を見直し、令和跨線橋の下をくぐって交通量が少なくなった旧道を通るルートに変更しました。旧道等の混雑を避けるために脇道に入り込む交通が少なくなり、通学時の安全性は改善されていると思います。

<通学路の変更について>



【直接効果】2. 安全・安心効果

(2) 救急搬送時間の短縮

- ・(主)網干たつの線の整備によって、2次救急医療機関の「ツカザキ記念病院」や「たつの市民病院」へのアクセス性が改善され、救急搬送時の所要時間短縮や安全性の確保が図られている。

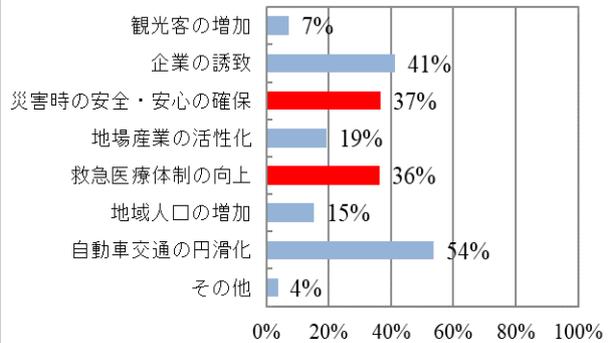
<(主)網干たつの線周辺の救急医療機関>



住民アンケート調査結果（令和6年9月実施）

[設問内容]

(主)網干たつの線整備による地域の発展についてどのような影響を期待しているか。(複数回答)



ヒアリング調査結果（令和6年8月実施）

●救急搬送時の変化について 西はりま消防組合たつの消防署員



救急搬送時は、最寄りの救急医療機関である「ツカザキ病院」に搬送することが多いです。JR山陽本線の踏切を回避できるようになったので搬送時間が短縮され、市民サービスの向上にも寄与していると感じています。

(3) 防災機能の向上

- ・当該区間は「兵庫県地域防災計画」において新たに緊急輸送道路の指定を受けており、災害発生時等の緊急時における道路ネットワークの機能向上が図られている。

たつの市ヒアリング調査結果

●緊急時の現場への移動について たつの警察署員



災害発生時に関する事例はありませんが、現場臨場の時間短縮につながっており、日々の事件・事故に対する迅速な対応に寄与していると感じています。

<緊急輸送道路指定状況>



【間接効果】 1. 地域間の交流・連携の促進

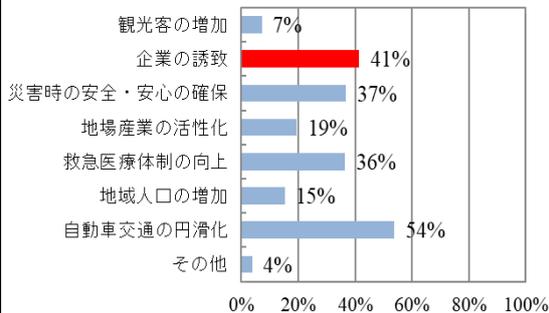
(1) 揖龍南北幹線道路の整備による地域振興の促進

・(主)網干たつの線は、中国自動車道と国道250号を直結して西播磨地域の南北軸となる幹線道路「揖龍南北幹線道路」の構成路線であり、企業誘致等により同地域の振興を促進する役割を担うことが期待されている。

住民アンケート調査結果(令和6年9月実施)

[設問内容]

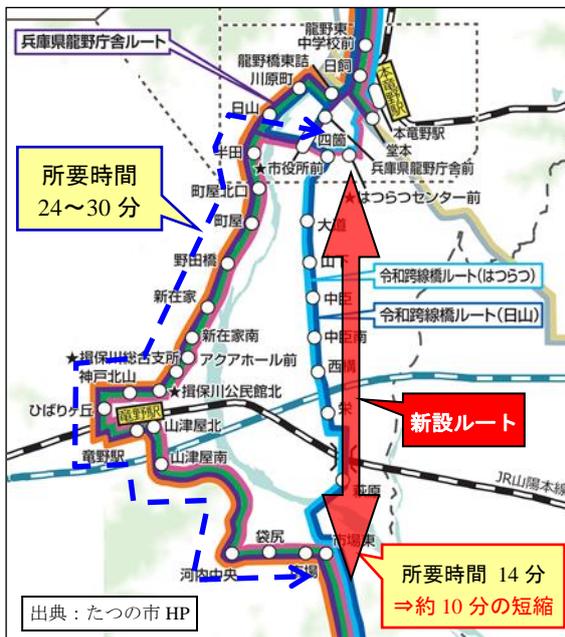
(主)網干たつの線整備による地域の発展についてどのような影響を期待しているか。(複数回答)。



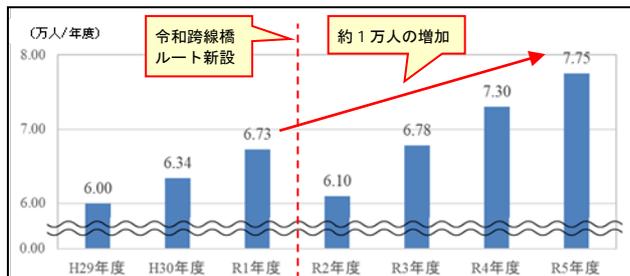
(2) 地域公共交通の利用者増加・利便性向上

・令和跨線橋の整備に合わせて、コミュニティバスのショートカットルート「令和跨線橋ルート」を新設しており、バス利用者数の増加につながっている。

<たつの市コミュニティバスの運行ルート>



<たつの市コミュニティバス利用者数の推移>



ヒアリング調査結果(令和6年8月実施) ●コミュニティバスの運行状況について たつの市役所職員



コミュニティバスは、令和跨線橋の開通に合わせてルートの新設と増便(6便/日)をしました。特に揖保川地区の住民にとっては利便性が大きく向上していると思います。

<揖龍南北幹線道路>



●事業実施による周辺環境への影響

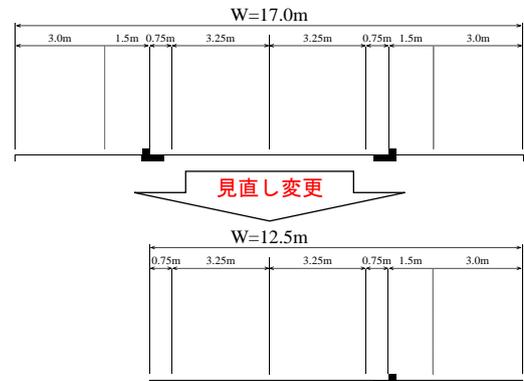
・通過交通の転換による騒音の軽減及び交通渋滞解消による大気質の改善

旧道区間や(市)揖保中真砂線の通過交通が転換し交通量が減少したため、沿線の地区における騒音の軽減や、CO₂ 排出量の削減及び大気質の改善につながっていると考えられる。

●特徴的な取組

・コスト縮減の取組

令和跨線橋、真砂橋区間において、歩行者や自転車の交通量を踏まえ、地元で相談した結果、自歩道を当初計画の両側整備から片側整備に変更することで、計画幅員(W=17.0m)に対して、実施幅員(W=12.5m)となりコストを縮減できた。



・事業の情報発信等

- ①事業中に、揖保小学校の児童や、龍野北高等学校の生徒を対象に現場見学会を開催した。
- ②橋名板は、揖保小学校の児童が「赤とんぼ」など、たつの市をイメージしてデザインした。
- ③令和2年3月22日に、(主)網干たつの線の開通に伴う開通式典を開催した。



●改善措置の必要性及び事業実施時の反省点、失敗点

- ・事業期間が当初の計画から6年延伸した。事業着手前から地元調整や関係機関協議を可能な範囲で行うことで、事業着手後の円滑な事業執行につながると認識している。事業着手前から地元調整を含めて執行環境を整えるように対処していきたい。

【参考資料】

●事業概要等の変遷

【平成27年度（再評価）】

総事業費：61億円
 事業期間：H18～H30
 計画延長：2,300m
 計画幅員：2車線 片側自歩道
 車道 6.5m（全幅 12.5m）

【令和元年度（事業完了）】

総事業費：62億円
 事業期間：H18～R1
 計画延長：2,300m
 計画幅員：2車線 片側自歩道
 車道 6.5m（全幅 12.5m）